

社会科学習指導案(小学校4年生)

〈授業改善の視点〉

本時のごみ収集の特色を調べ決まりにを見つける場面で、つなぎ教材:表「ごみの旅」を示して、ごみ処理の全体像を見通させながら、分別収集にや収集日の指定などがある利点を考えさせる指導をすれば、児童は、計画的なごみ処理のために決まりがあることを見いだすことができるであろう。

1 単元名 住みよいくらしとごみ

2 考察

(1)学びのつながり

①学習指導要領における位置

本単元は学習指導要領【社会科】第3学年及び第4学の内容に基づいて具体的に構成したものである。

1 目標

- (1) 地域の産業や消費生活の様子、人々の健康で良好な生活環境及び安全を守るための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。
- (3) 地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

2 内容

- (3) 地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。

ア 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり

イ これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること。

②これまでの学び

これまでに児童は、3学年「わたしたちのまち」で、本市の土地の様子や産業・交通の特色を調べる中で、自分も本市の市民であると自覚してきている。そして、「はたらく人と私たちの暮らし」の中で、本市の特色ある工業や野菜・稲作農業等を調べ、様々な産業によって自分たちの生活が支えられていることを理解した。更に、「くらしをまもる」で消防、警察等の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力によって、市民の生活が守られていることを理解した。更に、前単元「くらしを支える水」で本市の水道事業について調べ、公共事業によって、市民の良好な生活が維持されていることを理解している。

③ここでの学び

ここでは、本市のごみ処理事業について調べることを通して、ごみの処理が計画的、協力的に進められていることによって、市民の良好な生活が維持されていることを理解させる。同時に、本市のごみ処理の課題や市民参加の様子に気付かせ、ごみに関わる自分なりの実践の見直しをもたせることにより、本市民として生活する自覚をもち、社会参加をしようとする態度を養うことも目指している。そして、ごみ処理事業、水道事業の仕組みや共通点を考えさせる中で、市民生活の維持と向上を目指す公共事業について理解させていく。

④このあとの学び

このあと児童は、次単元「わたしたちの群馬県」、6学年「私たちの生活と政治」、「世界の中の日本」、中学3学年「私たちの生活と政治」へと学習を進め、群馬県から日本、そして、世界へと視野を広げ、民主主義のもとでの政治、行政、市民による、健康で良好な生活の維持と向上にむけてと取り組みを理解し、社会の一員としてそれらに参加、協力しようとする態度を育てることを目指していく。

⑤授業中の生徒指導

本時の学習では、問題解決的な学習の各段階で、自分の選択した活動方法や進度、疑問や気付き意思表示する場を設ける。(自己決定)また、「家庭ごみの出し方の決まり」を見つける活動を、「自力で考え」「グループで練り」「全体でまとめる」へと広げながら、互いの考えを比べたり補い合ったりする場を複数回設定することで、自分なりの考えを明確にもつことができるように促していく。(自己決定)同時に、互いの気付きのよさや違いに触れさせる。(共感的人間関係)更に、「全体でまとめる」活動の際には、児童個々の気付きを集約して「本市の家庭ごみの出し方の決まり」をまとめさせることで、全ての児童が主体的に学習が進められるようにする。(自己存在感)

(2) 教材観

本単元では、本市の計画的・協力的なごみ処理や資源化の取り組みについて理解させる。更には、本市のごみ処理の課題について自分なりの解決策を考えさせることを通して、市民として社会参加をしようとする態度を養うことを目指している。加えて、ここでの単元の学習を問題解決的に進めることで、自分で考え追究する力を高めていく。

本単元に関わり、ごみ処理の現状を見ると、地球温暖化問題に関わって「ごみ問題」への意識は全国的に高まり、大量廃棄型社会から循環型社会への転換が重要視されている。本市でも、安心して生活できる環境の維持と向上のために、ごみの適正な処理を進め、資源循環型社会の形成を目指す事業や対策がとられている。その中で、本市のごみ総排出量は横ばい傾向にあり資源の再生利用率は高い。しかし、ごみ排出量が県内他市と比べて多い傾向にあり、ごみの減量化が課題となっている。そのため、ごみの減量化・再資源化の推進のために、分別収集の徹底や資源の集団回収事業、粗大ごみなどの再資源化が促進されている。また、市民への啓発として、資源の集団回収事業への支援や広報紙等によるPR、施設見学会の実施、マイバッグ運動等が進められている。

そこで本単元では、始めに、学校や家庭のごみの量や種類の調査や分別作業などの体験的な活動を行うことで、ごみやその処理と資源化について注目させ、児童個々学習問題や単元の学習課題をもたせる。

それを受けて、次に、清掃センター等の施設見学をしたり写真やグラフ資料を読み取らせたりする等して調べさせる中で、ごみの処理や資源化が、計画的、組織的に行われていることを理解させる。その上で、良好な生活の維持と向上のために、ごみ処理の果たす役割の大きさを考えさせる。更に、ごみ処理に従事する人々や協力する市民の工夫や努力について調べさせることを通して、本市のごみの減量や資源化、環境保全の課題に気付かせる。これを受けて、児童に自分なりのごみ問題への取り組みを考えさせ、社会参加を意識させていく。

最後に、これまでの学習を、「ごみ処理の工夫」と「自分なりごみの減量(又は資源作り)」の二観点でパンフレット作りをさせることで、本単元の学習を簡潔にまとめさせる。加えて、ごみ処理事業、水道事業の仕組みや共通点を考えさせる中で、市民生活の維持向上を目指す公共事業について理解させていく。

(3) 児童の実態

(略)

4 評価規準

(1) 社会的事象への関心・意欲・態度

本市のごみ処理事業に関心をもち意欲的に調べ、ごみの減量のために自分にできることを考えようとしている。

(2) 社会的な思考・判断・表現

本市のごみ処理事業について、自分と関わらせて学習問題や課題を立て、それらの事業が市民の良好な生活の維持と向上に役立っていることやごみの減量のために自分にできることを考え、適切に表現している。

(3) 観察・資料活用の技能

本市のごみ処理事業が計画的、協力的に行われていることを、施設・設備の見学や地図、グラフ、写真などの資料の活用から、必要な情報を集め読み取り、ノートやパンフレットにまとめている。

(4) 社会的事象についての知識・理解

本市のごみ処理事業が計画的、協力的に行われ、市民の良好な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。

3 指導方針

(1) 主体的に活動し筋道を立てて考える力を高める学習過程・学習形態の工夫

- ①児童個々の学習問題を元に学習課題と学習計画を立て、問題解決的に学習を進める。
- ②各単位時間に、「自力で資料を読み取る→生活班(4人)等で考えを比較する→③皆で考えを比較分類するの3つの場」を設け、自分の考えを明確に持たせる。

(2) 学習活動を支える工夫

- ①つなぎ教材①「ごみの旅」…ごみ処理の流れと学習計画を図表で示し、学習の見通しを持たせ意欲を高める。
②「水の旅」…前単元学習計画と水の利用の流れを図を示し、本単元の比較させ考え視点を作る。
- ②社会科コーナー…図書資料を活用させるために、ごみ処理に関連する図書を学年ホールに準備する。
- ③ごみパンフレット…ごみ処理についての学習内容を絵や文で要約させるためにパンフレットを作らせる。

(2) 単元の指導の流れ

- ①ふれる…本市のごみ処理や資源化についての学習問題を立て、学習の見通しをもたせる。
・身近なごみの量や種類を調べたり、くえを予想させたりして、自分との関わりで問題を捉え関心を高めさせる。

- ・つなぎ教材2「水の旅」をもとに、ごみのゆくえについて考えさせ、つなぎ教材1「ごみの旅」を作成する。
- ・つなぎ教材1「ごみの旅」で本単元を概観させ、ごみ処理や資源化について学ぶ意欲や必要感をもたせる。
- ・児童個々に学習問題を集約して単元の学習課題や計画を立てさせることで、学習の見通しをもたせる。

② 追究する…本市のごみ処理や資源化について調べ、その事業が計画的、協力的に行われ、市民の良好な生活の維持と向上に役立っていることを理解し、ごみの減量のために自分にできることを考える。

- 本市のごみ処理や資源化が計画的、協力的に行われていることへの理解を促す工夫
- ・ごみ処理方法の具体的な情報を見つけさせるために、清掃センター見学をさせる。
- ・可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみに分けて処理と資源化の道筋を考えさせ、事業の計画性を理解させる。
- ・聞き取り調査や分別作業の疑似体験から、事業が協力的に行われていることに気付かせる。
- 児童に自分なりのごみ問題への取り組みを考えさせ、社会参加を意識させていく工夫
- ・自分が家庭や学校ですぐに実践できることを考えさせるために、身の回りの物のごみについて考えさせる。
- 本市のごみ処理や資源化についての資料を読み取る力を高める工夫
- ・見学や調べる際の視点を明確にもたせるために、予想や方法をワークシートなどに明記させる。
- ・見学や疑似体験で得た知識とグラフや絵図等からの情報を比較させることで、事実を読み取りやすくさせる。
- ・パンフレットの見出しとして、共通のキーワードを使って学習のまとめさせることで、要約する力を高める。
- ・資料をより深くより多様に読み取らせるために、様々なグループで比較交流する活動を行う。

③ まとめる…ごみ処理や資源化に関わる理解や自分なりの実践の考えをまとめる。

- ・学習課題や問題について調べたこと要約させるために、パンフレット作りをさせる。
- ・パンフレットを使って、ポスターセッションをさせ、考えを交流させる。
- ・つなぎ教材1「ごみの旅」とつなぎ教材2「水の旅」をもとに2つの学習を振り返り、公共事業についての気付きを促し、次単元「わたしたちの群馬県」、6学年「私たちの生活と政治」へとつなげる。

(3) 児童個々に対する支援

- ・ごみ処理や資源化の発展的な内容に興味をもった児童には、図書資料等を紹介し、学習を促す。
- ・学習の達成感を味わわせるため、児童個々の学習問題をしらべる段階で、必ず取り上げ解決させる。
- ・自力解決が難しい児童には、グループの考え元に学習問題を作らせたり、調べ活動を個別に支援したりする。

5 指導計画 (15時間)

過程	時間	おもな学習活動	指導上の留意点	評価項目等
ふれる	1	① ①ごみの旅(ゆくえ) ごみの旅を考え、学習問題をつくろう。 ○ごみの旅(ゆくえ)を考える。 ○単元の学習計画を立てる。	◎水の旅を元に、くらしをよくする視点でごみの旅を考えさせる。 ○ごみ処理について関心をもって学習を進めさせるために、経験や見学を元に「ごみの旅」たどらせる。 ○単元の課題と計画を立てるために、個々の関心や疑問から学習問題を作らせる。	【 思 】 判断表 ごみのゆくえを考えるを通して、学習問題や学習計画を考え表現している。(カード記述、発表)
		単元の学習課題 ①ごみは、どのようにしよられるのだろうか。		
追	2	② ②清掃センター見学○ごみ処理の様子を見学する。	○清掃センターの仕事について、予想を立てる。 ○児童個々の予想をもとに、ごみ処理や資源化の方法に注目させる。	【 関 】 意態 ごみ処理に関心をもち調べようとしている。(観察)
		③ ③ごみの分別 ○○市では、どのようなごみがだされているのだろうか。 ○家庭ごみの出し方を話し合う。 ○市のごみの量について考えたことを話し合う。	○可燃ごみの量が多いことに気付かせるために、資料「市のごみの量」を読み取らせる。 ○次の学習「分別収集」に気づかせるために、各家庭からの聞き取りを発表させる。	【 技 】 能 グラフから、可燃ごみが多いことを読み取っている。(発表、ノート記述) 【 関 】 意態 ごみの分別に関心をもち、その理由を調べようとしている。(ノート記述)
究	1	④ ④ごみの収集 ○○市では、ごみをどのようにしゅう集しているのだろうか。 ○○市のごみ収集について知る。 ○ごみの収集の工夫を考える。	○ごみ収集の決まりに気付かせるために、「ゴミ出しカレンダー」を調べさせる。 ○ごみの分別や収集日が必要であることに気付かせるために、分別作業をさせる。	【 知 】 理 本市が、計画的なごみ処理のために、分別収集やごみ収集日等を決めていることを理解している。(ノート記述)
		○○市では、様々な決まりを決めてごみをしゅう集している。		
す	1	⑤ ⑤可燃ごみごみの旅 清掃センターでは、可燃ごみをどのように処理しているのだろうか。 ○可燃ごみ処理の流れを図にする。 ○可燃ごみ処理の工夫を考える。	○可燃ごみ処理の仕組みを理解させるために、見学の記録を元に図作成させる。 ○効率や環境保全の工夫を見いださせるために、各作業の意味を考えさせる。	【 知 】 理 清掃センターでは大量のごみ処理がされ、環境保全にも配慮していることなどの工夫に気づいている。(発表、ノート記述)
		清掃センターでは、いろいろな機械や設備を使って、可燃ごみを燃やしている。		
	2	⑥ ⑥燃やした後の工夫 ごみをもやした後の工夫には、どのようなものがあるのだろうか。 ○ごみの灰の処理の仕方を調べる。 ○燃焼熱の利用について調べる。	○灰が安全に埋め立てられていることに気付かせるために、写真を読み取らせる。 ○焼却熱の活用されていることに気付かせるために、パンフレットを調べさせる。	【 知 】 理 灰の処理や、熱の活用は、○○市の人々の良好な生活環境の維持に役立っていることを理解している。(発表、ノート記述)
		ごみを燃やしたときに出る灰や処理熱は、適切に処理されたり有効に利用されたりしている。		

	1	7 生まれ変わるごみ しげん物やそごみは、どのようにしよりされているのだろうか。 ○資源ごみの旅を調べる。 ○資源化の大切さに注目させるため、リサイクルの様子を実物や図で確かめさせる。 ○身近なリサイクル品を調べる。 ○身近なリサイクル活動に気付かせるために、教室内のリサイクル品を探させる。 しげん物やそごみは再利用され、資源の節約に役立っている	思判表 ごみの資源化は、資源の節約になることを考え、表現している。(ノート記述) 関意態 ごみの再利用に取り組もうとしている。(発表)
	2	8 ごみ処理の工夫 ○〇〇市では、ごみをへらすために、どのような取り組みが行われているのだろうか。 ○ごみ処理の問題を調べる。 ○分別収集がごみの減量に有効であることに気付かせるために、資料「ごみの処理の変化」、「市の人口の変化」を読み取らせる。 ○ごみ減量のための取り組みを調べ、まとめる。 ○社会全体がごみの減量や環境保全を進めていることに気付かせるために、家庭・学校・商店・地域のごみ処理の工夫を比較させる。 ○〇〇市ではごみをへらすために、みんなで協力して工夫して住みよいくらしをつくらせようとしている。	知理 ごみの減量のために、市や市民、企業が協力していること、それらの取り組みが人々の良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。(話し合い観察、ノート記述)
	1	9 自分にできること ごみをへらすために、自分にできることを考えよう。 ○ごみの減量のために自分ができることを考え、発表し合う。 ○自分ができるところを元で考えさせる。 ○実践の見通しをもたせるために、互いの考えを交流させる。 ごみを減らすために、自分にできることを考え行動することが大切である。	関意態 自分ができるところの減量や再利用を考え、地域社会の一員として協力しようとしている。(話し合い観察、ノート記述)
ま と め る	3	10 ごみの旅パンフレット ごみ処理についてわかったことや考えたことをミニパンフレットにまとめよう。 ○ごみ処理について分かったことや自分の考えをパンフレットに表わし、交流する。 ○「分かったこと」と「自分の考え」を区別して単元をまとめさせるために、学習内容を「ごみ処理の工夫」と「自分なりごみの減量」の二観点で単元を振り返らせる。 ○ポスターセッションをさせ、考えを深めさせる。 ◎「ごみの旅」水の旅から、公共事業、行政や政治へと視点を広げさせる。	技能 学習内容を簡潔な文で表わしている。(記述) 知理 本市では、住みよいくらしのために、様々なごみ処理の工夫がされていることを理解している。(発表)

4 本時の学習(1時間)

(1) ねらい ごみ出しカレンダーの読み取りや分別作業を通して、市の計画的なごみ収集の決まりを理解している。

(2) つなぎ教材

①教材名 表「ごみの旅」…〇〇市のごみ処理や資源化の流れと学習計画を見通す図表

②目的 ごみ収集の決まりには意味や必要性があることの根拠をもたせ、更に、ごみの処理や資源化は、計画的に行われていることへの気づきを促す。

③つなぎ方

- ・見通しをもつ場面で、図「ごみの旅」の中で、図表「ごみ出しカレンダー」が必要な位置を見つけさせることで、収集に決まりがあることを意識させる。
- ・調べる場面で、図「ごみの旅」から、ごみ処理の全体像と「ごみ出しカレンダー」から読み取ったごみ処理の決まりを合わせ考えさせ、ごみの収集に決まりがあることの利点を考えさせる。

(3) 展開

学習活動と予想される児童の反応	時間	指導上の留意点 ⑩学びのつながり ※授業中の生徒指導の3機能
1 本時の学びをつかむ。 (1)前時の学びをふりかえる。 ・本市では、可燃ごみが多く分別していること。 (2) 本時のめあてをたてる。 ①既習の言葉「分別」をキーワードに、本市のごみ収集について学ぶ見通しをもつ。 ②本時のめあてを立てる。	5	◎つなぎ教材：表「ごみの旅」から前時を振り返り、「分別」について調べ、「ごみ収集の仕方」を考える必要感をもたせる。 ◎つなぎ教材：表「ごみの旅」内の本時の学習の位置付けを確認し、清掃センター見学等を振り返り、本時の学習への意欲をもたせる。
〇〇市では、ごみをどのようにしゅう集しているのだろうか。		
2 学びの見通しをもつ。 (1) 課題を解決する視点を知る。 ①図表「ゴミ出しカレンダー」を読み取る。 ②「いつ、どこで、どのように」で読み取る。 ③見学や自分の経験からも考える。 (2)学び流れを知る。 ①一人で考える。(一資料をよむ。)	5	○主資料「ゴミ出しカレンダー」を示し、ごみ収集は清掃センターでの作業の前段階であり、何らかの決まりや約束事があることを予想させる。 ○「ゴミ出しカレンダー」から、ごみ収集の決まりを読み取らせるために、「いつ、どこで、どのように」の視点を与え、更に、収集日の一部を全員で読み取り、自力で調べる見通しを持たせる。

- ②仲間と考える。(複数資料から事実をつなげる。)
- ③みんなと考える。(考察する。)

○自力解決が進むと予想される児童には、見学時の資料も同時に使用するよう指示する。

3 学びを追究する。

(1)本市のごみ収集の決まりを見つける。
①一人を考える 図表「ゴミ出しカレンダー」から、いつ、どこで、だれが、どのように収集しているのかを読み取り、ワークシート記入する。

(記述又は発言)
・今日は不燃ごみの日だ。
・可燃ごみと不燃ごみがある。
・資源ごみがある。
・出し方が決まっている。



5 ※自力解決ができそうな項目から資料を読み取るように指示し、児童に進度を確認させるためにネームプレートを黒板に掲示させる。(自己決定)
○資料の読み取りに苦手意識をもつ児童には、「ゴミ出しカレンダー」内に項目分けのヒントとなる区切り線をいれる等の支援をし、作業の見通しをもたせる。
○資料の読み取りが進んでいる児童には、清掃センター見学時の資料も提示し、更に、ゴミ出しの決まりの意味や必要性も考えさせる。

②仲間と考える
○「ゴミ出しカレンダー」から抜き出した各自の記述を比較しながら、〇〇市のごみ収集の特色を見つける。

(話し合い)
・いつ…可燃ごみは火・金曜日
不燃ごみは水曜日。
・どこで…近くの収集所
・どのように…分別して出す



10 ○次のみんなと考える活動での話し合いの資料になるように、「ゴミ出しカレンダー」から必要な情報のみ抜き出し、簡単な表にまとめさせる。
※ネームプレートで、自分と同じ項目を調べている児童を見つけさせ、意見交流を促す。(共感的人間関係)
※意見交換の中で、互いの考えの相違を確かめさせ、自分の考えを深めたり広げたりさせる。(自己存在感)

(2)みんなと考える 本市のごみ収集の特色をまとめる。
①ゴミ出の収集の特色をまとめる。

(記述 発表)	分別収集	近くの収集所
可燃ごみ 火・金曜日生	不燃ごみ1. 3水曜日	資源ごみ 水曜日
ごみ 紙おむつ 洋服 えだ プラスチック	われたびん ハサミ かさ おもちゃ	カン びん ペットボトル

10 **知理**本市が、計画的なごみ処理のために、分別収集やごみ収集日等を決めていることを理解している。(ノート記述)
・一人を考える・仲間と考えるの中で、「ゴミ出しカレンダー」に關係する言葉に印をつけたり抜き書きをしたりして、分別収集や収集日を捉えている。
・みんなと考える活動で、各グループの発表と本時各資料を結びつけて、「分別収集や収集日は、計画的なごみ処理のための決まり」と捉え文にまとめている。

②ごみ収集に関わる言葉を確認する。
・「分別」「可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみ」の言葉の意味を確認する。
・ごみ収集の特色を「決まり」の言葉でまとめる。
③ゴミ収集の決まりの意味や必要性を考える。

(話し合い)
・バラバラに出したら、みんながこまるなあ。
・ごみが分けられなくなると、リサイクルできない。
・清掃センターの仕事がらくになるなあ。

(話し合い)
・分別すると集めやすい。
・集める日が違うと集めやすい。
・分別するとリサイクルしやすい。



○主資料からごみ収集の決まりの抜き出しが十分でない児童には、補助資料「可燃ごみ・不燃ごみの出し方」(市役所HPより)や市指定ゴミ袋を示し、特に「分別」について視覚的な理解を促す。
○ごみ収集の決まりの捉えが十分な児童には、決まりの必要性(ごみの減量や資源化のため)の根拠となる資料を探させながら、思考を深めさせる。
○図「ごみの旅」の資源化の流れに当てはめさせながら、決まりがあることの利点を考えさせ、計画的にごみ収集をしていることに気付かせる。

4 本時の学びをまとめる。

〇〇市では、様々な決まりを決めてごみをしゅう集している。
(ノート記述例) 〇〇市は、しゅう集日やごみの分別の決まりを決めてしゅう集している。
〇〇市は、ごみを集めやすくする決まりを決めてしゅう集している。

(1)キーワードを使って、本時のめあてについて分かったことをまとめる。

○「決まり」「しゅう集」の言葉をキーワードとして、児童個々にまとめをさせる。

5 本時の学びを深める。

10 ○ごみの絵カード使って、を分別させることで、可燃ご

- (1)分別収集の模擬体験をする。
6 次時の学びの内容を知る。
 (1)分別収集されたごみの旅を考える。
 (2)次時の課題を立てる。

み、不燃ごみと資源ごみの区分を更に理解させる。
 ◎見学時の発見とつなぎ教材:表「ごみの旅」を参考に、ごみ処理センターに収集されていくこと確認し、分別処理されることを学習する必要性に気付かせる。

次時のめあて せいそうセンターでは、可燃ごみをどのように処理しているのだろうか。

(4) 板書計画 ①黒板

これまで
 ○市では、ごみは分別して出され、可燃ごみが多い。

調べ
 ①だ出しカレンダー
 ②いつ、どこで、どのように
 ③前から知っていること

活動
 ①一人で見つける
 ②仲間ともっと見つける。
 ③みんなでまとめる

ここでは
 めあて
 ○市では、ごみをどのようにしゅう集しているのだろうか。

まとめ
 ○市は、しゅう集日やごみの分別のきまりを決めてしゅうしゅうしている。

このあとは
 可燃ごみは燃やしている

清掃センター

どのように 分別

可燃ごみ	不燃ごみ	資源ごみ
火・金曜日生	1. 3水曜日	水曜日
ごみ 紙おむつ 洋服 えだ プラスチック	われたびん ハサミ かき おもちゃ	カン びん ペットボトル

きまりがあると
 ・集めやすい
 ・清掃センターで
 仕事しやすい
 ・リサイクルできる

どこ しゅう集所
 いつ **しゅう集日**
 ごみによって
 曜日がちがう
 午前7時から
 8時30分

②壁面(つなぎ教材)

ごみの旅 (学習計画)
 ごみは、どのようにしよられるのだろうか。

家や学校



- 1 どんごみがあるのか。
- 2 どうやって集めるのか。
- 3 どうやってごみをよりするのか

清掃センター



- 4 どこに行くのか
- 5 何にやるのか

勉強したことで、ごみパンフレットを作る

児童の学習問題